

後期の図書委員さんによるお勧め本の紹介です。7～8月にたくさん本が入りました。図書室に来て是非読んで下さい。図書委員の人で、まだ感想が出ていない人は図書室まで持って来て下さい。昼休み・放課後はいつも開いていますので、利用して下さい。

☆		「火のないところに煙は」 芦沢 央 主人公のもとに「神楽坂を舞台に怪談を書きませんか？」という依頼が突然来る。主人公は神楽坂で悲惨な出来事があったので、小説を書くのをためらいますが、その事件が解決するのなら、と思い小説を書くことにします。書いていくうちに、共通点が見つかっていき、クライマックスでは伏線がどんどん回収されていき、驚きました。ぜひ読んでみてください。 1-4 Nさん
☆		「夢をかなえるゾウ」 水野敬也 私はなぜこの本を読もうと思ったかというと、タイトルに魅かれたからです。普通は神様とかが夢をかなえるのだと思っていたけれど、ゾウが夢をかなえるというところに興味を持ちました。ダメダメの会社員がある朝起きたら、ガネーシャと名乗るゾウの神様がいて、「夢をかなえてあげる」といいます。そして、自分が成功できるように、課題を出すというのです。課題とは、自分の靴磨きとか、お釣りの募金とか、成功とは関係のなさそうなことばかりです。でも、課題を終わらせていくごとに、主人公の心の中もちょっとずつ変化し、成長していくという話です。 1-4 O君
☆		「余命10年」 小坂流加 この本は本屋のお勧めに載っていたので、選びました。少しずつ読んでいくにつれて、興味を持ちました。主人公のまつりは数万人に一人という不治の病にかかります。医師から告げられたのは、あと10年しか生きられないということでした。僕自身、ここだけを見ると、かなり深刻な状況であると思いました。僕なら、到底受け入れることはできないでしょう。また、まつりの祖母もその病気で亡くなっていました。父親はその病気を知っていたため、青ざめて、最後には頭の中が真っ白になりました。治療法もないため、治すことは不可能でした。彼女は残された10年をどのように過ごしていくのでしょうか？ 2-3 I君
☆		「ラブカは静かに弓を持つ」 安壇美緒 この本は読み終えてみると、いろいろと気づかされることが多い本でした。信頼の大切さについて考えさせられました。「信頼は築くのは大変だが、壊すのは一瞬だ。」ということを中学校の先生によく言われていました。主人公は一度人を裏切りましたが、その後謝り、信頼を取り戻しました。会社の事情である音楽教室にスパイとして通うことになります。スパイ行為は辛いはずですが、それを可能にするのが、理由付けをすることです。理由を与えられた人はなんでもできてしま

☆		うという怖い一面があるという発見ができました。復讐もそのうちの一つです。 1－1 K君
		「がばいばあちゃん」 島田洋七 私がこの本を読もうと思ったきっかけは、高校野球で佐賀北高校が優勝した時の映像で、「がばい旋風」ということばで紹介されていて、その言葉に興味を持ったからです。調べてみると、「佐賀のがばいばあちゃん」という本があることを知りました。まず、「がばい」とは佐賀弁で「すごい」という意味だそうです。だからこの本を読み終えるまでは、おばあちゃんの何がすごいのか、とても興味がありました。 2－1 N君
☆		「ダレン・シャン」 ダレン・シャン イギリスの人気シリーズでダーク・ファンタジーです。漫画にもなっています。作者はこのストーリーを自分の甥を楽しませるために書き始めたそうですが、次々に話が続いていき、不気味さと不思議さを兼ね備えた中毒性のあるストーリーです。イギリスで大人達はこの本を子供に読ませたくなかったそうですが、そのうち、大人が夢中で読み始めたといういわれがあります。友人を救うために半バンパイアになった少年、ダレンの戦いの話ですが、師匠のクレプスリーも謎めいた人物で魅力的です。クレプスリーのことをもっと知りたいというファンの要望に応じて、「ダレン・シャン前史・クレプスリー伝説」も出版されました。でもそのまえに、まずダレン・シャンを読んでみてください。漫画の4冊までは図書室に入っています。読者が増えれば、小説も揃えていきたいと思います。 図書部
	 	「ホルス・ライジング」 ダン・アブネット 「ウォーハンマー40,000」を知っていますか？これは新しい趣味を始めた人におすすめの、イギリスで作られたダーク SF 世界を舞台にしたミニチュアゲームです。このゲームではフィギュアに色を塗ったり、戦場を作ったり、他のプレイヤーと戦ったりすることができます。世界は広いので、いろいろな種族のミニチュアが集められます。このゲームは外国で人気になり、小説をはじめ、たくさんの作品が作られています。「ホルス・ライジング」という小説は人類の帝国「インペリウム・オブ・マンカインド」を背景とした話です。人類の皇帝の息子たち「プライワーク」のもと、一流の兵士「スペースマリーネズ」が宇宙に広がり、星々を支配し、科学知識を熱心に広めています。その過程で、古代から諸惑星に散らばった人類と遭遇し、反逆者や人類を攻撃する宇宙人の種族との戦いを繰り返しています。しかし、インペリウムが支配した星々の中には、恐ろしい秘密が広まり、インペリウムの統一が脅かされています。果たして、主人公のスペースマリーネのガルヴィエル・ローケンはどう立ち向かうのでしょうか。興味があれば、三宮に「ウォーハンマー40,000」のお店があります。行って見て下さい。 トム先生